

駅の鏡が見ている

駅のフォームの鏡の前で

女だけの儀式が

今朝もまたそこここで進行している

蟻の手足のように

触れるか触れないかの微妙さで

睫毛を直し

直ぐ頬へと移り

唇をすぼめて目を凝らし

耳たぶをかすめて襟元へ

一歩下がって上目遣いに髪形注意

また近づいて肩をつまむ

にんまりと微笑み

両手で軽く顔を挟んで

小首を傾げて小休止

視線だけを鏡に残して

靴音はもう立ち去っている

どの番線にも電車の発着

駅全体が一つの機械となって時を刻む

すべての乗客の視線が

男も女も

上司も会社もビルの階段も

一瞬網膜から捨て去って

「女」について考えている